

いろいろなチャンスを利用して

昼休みに、三名の生徒が校長室にやってきました。ノックをして入室してきた顔ぶれを見て、私は一瞬戸惑いました。

「ん？この子たちの共通点は一体何だろう？三人そろって来たから、何か関係があるのだろうけど……。」

入ってきたのは、三年のM・Yさん、一年のY・R君とW・K君でした。三年生と一年生、女子と男子、大湫町出身と土岐町出身……部活動でもないし……委員会活動かな……。私は三人の共通点を何とか発見しようとしたが、結局見つかりませんでした。

三人は私の前に進み、横一列に並びました。そして、上級生のM・Yさんが口火を切りました。

「恵那地区の珠算競技大会の団体戦で、私たちは準優勝を収めましたので報告に来ました！」

彼女はそう語ると、準優勝の賞状と中学校の部の成績一覧を見せてくれました。そこには、参加者二十九人の個人成績と、団体戦を戦った四校の成績が記されていました。優勝は恵那市のH中学校、僅差で瑞浪北中学校が準優勝。注目すべきは、H中学校からの参加者が十名で、その中の上位三名で団体戦に臨んでいるのに対し、北中は私に報告に来た三名だけの参加、それがそのまま北中の団体メンバーだったことでした。

三人に話を聞くにつれてわかったのですが、普段はM・Yさんは釜戸で、Y・RくとW・K君は瑞浪で珠算の練習に取り組んでいるとのこと。この大会に臨むにあたって誕生した急造チーム、知り合った三名だと言ってよいでしょう。学年、性別、そして、出身地区が違う三人が、「瑞浪北中学校」という枠でくくられて深く知り合ったということなのです。

北中三年目。部活動や委員会活動、また、ボランティア活動などの地区や学年を越えた取り組みで、顔や名前がわかる仲間は増えたことでしよう。しかし、最もあなたのことを、また、あなたが知っているのは、やはり出身小学校の先輩や後輩ではないでしょうか。

学校の規模が大きくなればなるほど、出会いに臆病になっていると人間関係は広がっていきません。出身小学校が同じ仲間、部活動や委員会活動で一緒になった先輩や後輩などに限定せず、いろんなチャンスを利用して、人間関係を広げていってほしいと願っています。

幕末の志士坂本龍馬が世に名を馳せているのは、彼自身の魅力や力もあるでしょうが、会いたい人には何とんでも会うという積極性があったからだと思えます。新しい人間関係を築くことが、あなたのこれからの生活を豊かにすることでしょう。

